



目議第2346号  
令和2年2月4日

様

目黒区議会議長  
宮澤 宏 行

### 質問通告について

令和2年2月18日開会の第1回目黒区議会定例会における質問通告が下記のとおりありましたので通知します。

### 記

#### 代表質問

質問者氏名 おのせ 康 裕  
目安時間 60分

#### 1 目黒区長4期目の総括について

区長は残すところ2か月で、4期目の区長としての任期を終える。今期の在職中には、ふるさと納税による減収、待機児童数ワースト3、幼児虐待死事件の区内での発生など、様々な施策のマイナス面が露呈することもあった。一方議会からの要望を受け止め、目黒シティランの開催、区内小・中学校体育館エアコン設置、20年ぶりの区内特養ホームの設置、待機児童ゼロ見込みを実現することもできた。区長は自身の4期目の総括をどのように考えているか。

#### 2 令和2年度の所信表明について

率直に言って、今回の所信表明は、大変評価できる内容である。それは、議会から要望や提案をされてきた全ての内容を満遍なく盛り込んでいるか

らにほかならない。

今までの4年間では語られなかった、ソサエティ5.0への視点、健康長寿社会の集大成である、全世代型社会保障への視点SDGsの考え方や、現実に即した危機管理体制への言及などである。これらはこの4年間の1年目から議会がアンテナを張り、機会や補助金を先取りして着手することを求めてきた内容であり、任期最後の所信表明であったことが残念でならない。劇的な変化と受け止められる今回の所信表明に至った原因は何か聞く。

### 3 令和2年度予算編成について

今期も、オリパラ後の景気後退予測や、ふるさと納税、市町村民税法人分の国税化などの減収を含んでも、緩やかな景気回復効果で5億3千万増、一般会計規模で1千億を超える見込みだが、新しい施策やいわゆる目玉施策に着手をしていない。これは、とりわけ待機児童ゼロを目指した保育園関係費のランニングコストの増大による扶助費の予算圧迫を如実に示していると考えられる。この扶助費の増大と既定経費の増大についての処方箋は現在どう考えているのか問う。

### 4 子育てを取り巻く環境について

本年度は目黒区内の待機児童がゼロを達成できる見込みである。様々な手法で認可園、認証保育園を増やすことにより、この状況を解決したが、保育の質や、保育士不足、さらには学童保育不足が予測され、喫緊の課題となる。また、我が区内で起きた幼児虐待死事件から、児童相談所の設置を目指す、児童相談所は最後の砦であり、その前に様々な施策や、全ての大人が子どもを守る砦として活用されるべきである。先行設置区の状況も見極めての作業であり、少なくとも子ども家庭支援センターの強化と人員の充実が最優先課題である。今後の待機児童ゼロからの推移と、学童保育不足問題、児童虐待根絶への指針はどうか問う。

### 5 区民の安心・安全の欠如について再び問う

前回の一般質問で、昨年台風19号の際の災害対応の不備に触れた。予測可能な台風という天災に対し、他区と違って、災害対策本部を設置せずに避難所を6カ所設置し、避難所の運営に支障を来したこと、区民の情報の生命線であるホームページの度重なる遮断、区長の避難所視察の不実施など、安心・安全とは程遠い状況にある我が区の、前回の台風時の災害

対策についての反省点を述べよ。

6 圧倒的なアナログ体質からの脱却について

今回の所信表明では、国や東京都のソサエティ5.0への言及がなされ、この方向に舵を切るような表記があるが、区政の最高責任者である区長自らがガラケー使用者で、自身の情報発信を拒否している状態はWeb2.0ほどである。ロボットやICTの活用はもちろん、東大、東工大などといった産・学・官の連携を踏まえ、東京都の5G計画への率先推進区を目指す気概はないか。

7 区政の私物化と多選の弊害について

区長は所信表明の最後に、次期区長選へのチャレンジを表明している。我が自民党は、区長の推薦申請に対し、今回は推薦できない旨の表明を回答した。それは今後の区政運営で青木区長とワンチームを組めないと判断したからに他ならない。我が党は、健全な二元代表制を堅持するために、区長と議員が存在する親子議会に対し、警鐘を鳴らしたが現実のものとなっている。また区長の初当選時の公約である3期までの期間は過ぎ、政策のマンネリ化や、リーダーシップの欠如、我が党との信頼に対し疑義を生じることこそが、多選の弊害と考える。したがって、我が党は、今回の区長選の争点は、多選、区政の私物化、リーダーシップの欠如、マンネリ打破と考えるが、区長の見解はどうか。

質問者氏名 山宮 きよたか

目安時間 60分

1 未来を見据えた区政運営について

(1) 目黒区基本構想の改定について

所信表明の中に、持続可能な開発目標(SDGs)の視点で各種施策に取り組んでいくとあった。目黒区基本構想の改定においては、SDGsの取り組みをどのように生かしていくのか、区長の考えを伺う。

(2) 健全でフレキシブルな行財政運営の確保について

3年連続して、経常収支比率が適正範囲を超過した状況。特に義務的経費である扶助費が年々増加している中、「強固で安定した財政基盤の確立」に向けた取り組みについて伺う。

(3) 高齢者人口の増加に伴う支援について

地域共生社会の実現に向けて、福祉の各分野を越えた包括的支援体制の構築に向けて取り組みを進めながら、目黒区の目指す「地域包括ケアシステム」は、どのように区民の理解と協力を得ながら推進していくのか伺う。

(4) 東京2020大会の成功に向けた取り組みについて

次世代へと継承するレガシーの創出へ向けて、オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機として実施する目黒区のスポーツ振興や地域の活性化につながる事業支援の取り組みについて伺う。

2 安全・安心なまちづくりへの取り組みについて

(1) 危機管理体制の強化について

これまでの大規模地震を中心とした危機管理体制から、風水害等も含めた総合的な災害対応を全庁体制で取り組むとある。特に重要な「災害時の初動体制の強化」について、これまでの課題等を整理・分析した結果をどのように生かして取り組んでいくのか伺う。

(2) 情報発信体制の強化について

大地震・風水害等の災害時、テロや感染症などの様々な緊急事態への対応力が求められている。

区民の皆様の不安を払拭し、命を守る行動がとれるように適切な情報発信が必要と考えるが、その体制強化に向けた取り組みについて伺う。

(3) 目黒区の災害医療体制について

災害時における医療機関等との連携や緊急医療救護体制の機能確保について、薬剤師の人員不足や医薬品の72時間確保等の顕在化した課題をどのように見直し、目黒区の災害医療体制を構築していくのか伺う。

3 教育の振興について

(1) 目黒区の公教育の展望について

目黒区の子どもたちが未来社会を切り拓くための資質や能力をどのように育成していくのか、教育長の考える「教育ビジョン」について伺う。

(2) 学校における働き方改革の推進について

教員一人ひとりが勤務時間を意識して、働き方を見直した業務の適正化と教員の負担軽減等の取り組むべき課題について教育長の考えを伺う。